文京区駒込の寺地の変遷

TRANSITION OF THE BUDDHIST TEMPLE AREA IN THE KOMAGOME DISTRICT, BUNKYO

渡 邊 美 樹*

Miki WATANABE

This study uses historical maps and data to research the Buddhist temple area in Komagome. The temple and graveyard areas of the Edo, Early-Meiji Period, Beginning of Taisho Period and the present day are layered on a map, and the overlapping images are analyzed. As a result of the analysis, the following findings are observed:

1. In the Edo Period, many temples were transferred from the neighboring areas, for example, Kanda, Yushima and Hongo. Of these, nine temples' were using the Rinso-in's territory.
2. After land requisition in the early Meiji Period, in almost all cases, less than half of the bestowed land was authorized as a precinct temple area. Leased or taxed land in the Edo Period were authorized as a private land.
3. Some of the temple area was disposed and returned as private land due to the self-clearing petition appealed by the superior of the temple.
4. By the end of the Meiji Period, many temple areas, inside and outside the precinct were disposed. In many cases, graveyards remained on the original temple area.
5. The shape of the main street in the Edo Period can be seen in this area, and that of the town house block inherited from the Edo Period can be seen in some places. On the other hand, the high-rise apartment, located along the main street, overlooks the cemetery from the balcony of the apartment.

Keywords: *Komagome, Hongo, Buddhist temple territory, Temple area, Precincts, Transition*

駒込, 本郷, 寺院領地, 寺地, 境内, 変遷

1. はじめに

1-1(1) 研究の背景と目的

本研究は、享保年間の初頭（1720 年ごろ）までに江戸の寺町が形成された概要を把握した上で、明治初期の神社領土地を経た後、現在までの寺地と墓地領域の変化を検証し、江戸外縁部の寺地の形成と変容について考察することを目的としている。高密度化を続け、一部では大規模な再開発計画が繰り広げられる都市の中で、現在もお維持されている寺地と墓地は、江戸期からの元の地点を継承する遺構であるとともに、今後も貴重なオープンスペースとして維持される可能性がある。

筆者はこれまで既に、現在寺町の様相が保たれてる台東区谷中地区と、震災後の区画整理や土地運用によって寺地が極端に整形・縮小した台東区西浅草に焦点をあて、現在までの各地区の寺地の変遷についての考察を行なった^{1) 2)}。前稿でも述べたとおり、江戸寺院の起立と移転、寺町の形成に関しては、鈴木、日塔両氏による詳細な研究報告がなされており^{3) 4)}、江戸寺院と寺地の存在形態については伊藤氏により⁵⁾、江戸の都市と社会構成については吉田氏による調査研究成果がまとめられている⁶⁾。さらに寺院境内の変化と建築あるいは寺町の変化については増上寺⁷⁾、三田寺町⁸⁾における図式

的分析を含めた研究報告がなされ、寛永寺および浅草寺については光井氏によって、寺院の経済機構を含めた詳細な論文資料がまとめられている⁹⁾。本研究においては、それらの研究成果を参照しながら、特定の地区を対象として、時代ごとの寺地領域を地図上に重ねることによって同じ地点での時代による変化を比較検討し、その特徴について考察する。

1-2(2) 谷中、西浅草地区についての前稿研究と本稿の位置づけ

前稿、台東区谷中地区の寺地の変遷については、江戸期から寺院数と寺地の極端な減少が無い理由として、江戸（墨引き）の外縁であり中心部からの開発が及ばなかったこと、墓地を伴う寺院が多く墓地の移動が困難であったと共に、官有墓地は実際に寺院が管理したため実質上は寺地が確保されたこと、震災と戦災からまぬがれ、大規模な区画整理による敷地の分断や縮小がなかった点などを述べた。台東区西浅草の寺地については、江戸元禄期に寺地であった箇所が安政期には一部町人地となっており、この地区では町人地拡大の影響が見られること、大正期の寺地の地籍には敷地全体が官有地の寺院や個人名義の寺地および墓地があり、谷中地区の大正期の地籍種別とは相違が見られること、震災復興以後、区画整理による敷地形状の変化と墓地の特設化による墓地領域の縮小が行われ、特に

* 足利工業大学建築学科 准教授・博士(工学)

Assoc. Prof., Dept. of Architecture, Ashikaga Institute of Technology, Dr. Eng.

表 1 駒込地区の寺院の起立・移転と寺地の種別

番号	記号	寺社書上 細目	宗	場所	移転前	起立/移転	現在地	外移転	1826(文政9)年 御府内寺社備考	1877(明治10)年寺院明細帳 境内	寺院明細帳 境外	寺格・寺中
1	●	定泉寺	浄土	駒込浅嘉町	本郷弓町	1615	1657		拝領地1260坪	官981坪	民畑224坪	京都知恩院
2	■	大運寺	浄土	駒込浅嘉町	現在地	1627			麟祥院古跡年貢地192坪、 外ニ283坪余借地古跡	民726坪	民畑203坪	浅草幡随院
3	●	蓮光寺	浄土	駒込浅嘉町	湯島妻恋坂	1601	1657		拝領地2918坪	官1116坪	民186坪	京都知恩院
4	◎	願行寺	浄土	駒込片町	品川、馬喰町	1494、1657	1684		拝領地1300坪	官583坪		京都知恩院
5	●	潮泉寺	浄土	駒込片町	本郷丸山	1609	1657		拝領地134坪年貢地167坪+ 門前40坪	官145坪民164坪	民40坪	芝増上寺
6		十方寺	浄土	駒込肴町	根津	1615	1662		1370坪除地内855坪年貢地 515坪天澤寺(麟祥院)領	民553坪		下谷源立寺
7	◎	専念寺	浄土	駒込千駄木町	神田水車、湯島天神下	1600、1617	1683		拝領地	官209坪	民139坪、願中	京都知恩院
8	●	正念寺	浄土	駒込竹町新道	本郷菊坂	1617(1597)	1657	大正後	年貢地188坪	民155坪		深川靈巖寺
9	●	天栄寺	浄土	駒込土物店	本郷丸山、菊坂	1617	大火後		拝領地1065坪	官562坪		京都知恩院
10	●	徳性寺	浄土	駒込土物店新道	湯島妻恋坂	1616	1659		拝領地374坪	官178坪		本所霊山寺
11	■	天然寺	浄土	駒込富士前町	現在地	1645			古跡除地756坪	官1009坪	民798坪	浅草聖徳寺
12		正行寺	浄土	駒込三ヶ家町	湯島	1605	1682		古跡拝領地1625坪内門前 252坪	官1012坪		芝増上寺
13	□	栄松院	浄土	駒込四軒寺町	神田明神下	1589	1648		拝領地1080坪持添年貢地 139坪	官491坪	民宅地173坪	京都知恩院
14	□	光源寺	浄土	駒込四軒寺町	神田四軒町	1589	1648		拝領地1755坪	官1627坪	畑127坪	深川本誓寺
15	□	瑞泰寺	浄土	駒込四軒寺町	神田明神下	1589	1648		拝領地1295坪持添年貢地 250坪	官677坪	民202坪	京都知恩院
16	□	清林寺	浄土	駒込四軒寺町	神田四軒町、神田川柳	1503、1613	1648		拝領地1080坪持添年貢地 252坪	官541坪	民183坪	浅草幡随寺
17		浄心寺	浄土	駒込追分町	湯島妻恋坂	1682	不詳		古跡拝領地792坪年貢地 648坪麟祥院借地417坪持 添地375坪	民556坪		芝増上寺
18	◎	常德寺	浄土	下駒込村	湯島天神通し	1630	1683		麟祥院領古跡年貢地585坪			京都知恩院
19		専西寺	浄土真	駒込肴町	鎌倉、湯島、代々木、 駒込百姓地	1207、1627、1682、 1692	1718		古跡年貢地475坪			京都東本願寺
20		教元寺	浄土真	駒込富士前町	日本橋	不詳	1627		麟祥院領古跡年貢地396坪 内除地16坪町並抱添地49 坪門前アノ			浅草本願寺
21		長源寺	浄土真	駒込富士前町	練馬、神田御茶ノ水	1612	1705		麟祥院領古跡年貢地544坪 内184坪添地			浅草本願寺
22	◎	西善寺	浄土真	駒込三ヶ家町	本郷金助町	1616、1628	1683		麟祥院古跡年貢地380坪			京都東本願寺
23		真浄寺	浄土真	本郷追分	神田連雀町、本郷金助	1613、1648	1761		古跡借地1000坪			京都東本願寺
24	●	吉祥寺	曹洞	駒込浅嘉町	和田倉門、神田駿河台	1458、1591	1657		拝領地、御朱印地寺中4子 院	官7427坪	民学寮地1332坪畑 3841坪学寮元敷地 421坪	上野永源寺
25	●	高林寺	曹洞	駒込浅嘉町	神田、本郷湯島台	1596	1657		拝領地6165坪	官1579坪	民宅地349坪畑532 坪	武蔵忍集福寺
26	◎	養昌寺	曹洞	駒込浅嘉町	湯島	1722	1683		拝領地621坪年貢地133坪			今戸慶養寺
27	●	江岸寺	曹洞	駒込片町	神田、湯島	1596、1604	1657		境内拝領地2609坪+門前田 地780坪	1068坪	民有地畑646坪、願 中	駒込高林寺
28	□	大円寺	曹洞	駒込片町	神田柳原	1624	1649		境内4032坪+門前43坪	官1528坪		上州清柳茂林寺
29		捷禅寺	曹洞	駒込千駄木町				明治末	拝領地2000坪+門前	官636坪	民229坪	浅草法福寺
30		海蔵寺	曹洞	本郷追分	現在地付近	1532-58	1718		拝領地6048坪内真浄寺貸 地1000坪	官2161坪	民2387坪、願中	橋場総泉寺
31		大林寺	曹洞	本郷追分	下谷、白山	1615-24、1653	1719		古跡年貢地2924坪	民3105坪		駒込高林寺
32		円林寺	天台	駒込浅嘉町				大正後	拝領地272坪	官198坪(私下願中) 墓地43坪	民74坪	上野東叡山
33	■	南谷寺	天台	駒込浅嘉町	現在地	1628			なし	官474坪墓地60坪	民宅地81坪	上野東叡山
34	■	世尊院	天台	駒込千駄木町	現在地	1695			拝領地5300坪内1344坪門 前町屋貸地	官1549坪	官墓地679坪民畑 662坪	上野東叡山
35	●	大保福寺	天台	駒込千駄木町	湯島	1653	1657		拝領地4032坪除地8坪	官1440坪	官墓地773坪民246 坪	上野東叡山
36	■	大恩寺	日蓮	駒込御旗町		1624		1925	年貢地1230坪	民1050坪	墓地262坪	下総中山法華經寺
37		円成寺	日蓮	駒込千駄木町	不詳		1684	1974	除地、年貢地			安房小湊誕生寺
38		長元寺	日蓮	駒込追分町鯉縄手	太田家屋敷内	1627	1662		境内除地1080坪	官827坪	民墓地319坪	甲斐身延山久遠寺
39		法林寺	日蓮	駒込追分町鯉縄手		-1671			除地、年貢地			甲斐身延山久遠寺
40		顕本寺	日蓮	本郷追分	不詳、駒込	1631、1692	1719		年貢地466坪			陸奥会津妙法寺
41	■	浩妙寺	日蓮	本郷三ヶ家町	太田家屋敷内	1628			境内1295坪	官484坪	墓地	駿河玉沢妙法華寺
42	●	勝林寺	臨済	駒込追分町鯉縄手	湯島	1615	1657	1908	拝領地1160坪添地寄進添 地260坪	官314坪	民106坪	京都妙心寺
43	●	円通寺	臨済	駒込片町	御茶ノ水	1630	1657		麟祥寺古跡年貢地1500坪 古跡拝領地3600坪持添年 貢地1518坪	官1699坪	民畑1820坪	京都妙心寺
44		竜光寺	臨済	駒込土物店新道	新宿矢束	1632	1656					京都東福寺
45	◎	徳源寺	臨済	下駒込村	湯島妻恋坂	1630	1684		麟祥院古跡年貢地1251坪			京都妙心寺
46	●	養源寺	禅宗(臨)	駒込千駄木町	湯島天神下	1616	1657		古跡拝領地3000坪	官564坪	民畑849坪願中	京都妙心寺

■現在地起立 □1648,9年移転 ●明暦大火後移転 ◎天和3年(1683)大火後移転

寺地は一部を残して消滅している。駒込地区には、前述した四軒寺町が確認でき、3 浄土宗蓮光寺、25 曹洞宗光林寺、35 天台宗大保福寺、46 臨済宗養源寺など大火後に湯島から移転した寺院がまとまった場所に確認できる。さらに太田家屋敷内にも名称は違うが寺院が確認できる。この地区には、街道沿いに町人町家と御用地があり、水戸家、太田家の広大な武家地は依然としてある。吉祥寺の近隣には、「田畑」と「在家」の文字が確認できる。

2- (3) 麟祥院、伝通院領について

一方、御府内寺社備考に記載されている寺地の種別(表1)によれば、2 大運寺、6 十方寺、17 浄心寺(以上浄土宗)、18 常德寺、20 教元寺、21 長源寺、22 西善寺(以上浄土真宗)、43 円通寺、45 徳源寺(以

上日蓮宗)の寺地が麟祥院年貢地あるいは借地となっており、安政3年重ね地図によると、旧中山道沿いの9つの門前や町人地が麟祥院領、3つの町人地や門前が伝通院領と記載されている(図3)。麟祥院は、寛永元年(1624)、臨済宗「報恩山 天澤寺」として湯島に創建し、春日局の法号により「天沢山 麟祥院」と改号した寺院である(図1、2)。御府内寺社備考および寺院明細帳によれば、1634(寛永11)年に寺領300石の御朱印を拝領し、そのうち100石は豊島郡柏木村の百姓地、100石は駒込村の百姓地であったとある。一方伝通院は、浄土宗寿桂寺と号し、1415(応永22)年に小石川に創建され、1603(慶長8)年、徳川家康生母の方埋葬につき現在地へ移し再興した。当時、寺領830石の御朱印と多くの末寺を持つ寺院であった。前述のとお

図3 1856（安政3）年の寺地と寺院の起立・移転時期

り、麟祥院が駒込に拝領した百姓地は、寛永江戸図および明暦江戸図にも記載されている、太田家屋敷地の北側周辺の田畑や百姓地を示すこと、これらの寺院は様々な理由^{注1)}によって当時田畑であった駒込の麟祥院領に移転してきた事がわかる。町人地や門前として、伝通院領が点在する理由は不明であるが、伝通院の縁起や位置関係を鑑みると、このあたりが伝通院と麟祥院の領境であった可能性や、もとは伝通院領であった土地を麟祥院が拝領した可能性などが示唆される。

3. 明治初期寺領の変化

3- (1) 上知令と境内外区画決定までの経緯

文京区の寺院は、ほとんどが戦災の被害にあって明治期の史料を残していない。土地関係資料が残っているまれな例として、4 浄土宗願行寺のの記事が「文京区史」に取り上げられている¹⁴⁾。それによれば、上知令の前年（1870）9月に東京府が寺院の本末寺号、境内坪数などの調書を提出させており、願行寺では境内除地1,300坪、元朱印地除地山林等なし、滅罪檀家110軒、子院の滅罪檀家が合計102軒と記している。これは御府内寺社備考の記載と合致する。同年10月府から測量に来たが、建物の建坪と税額らしきものを調べただけで土地の間尺はなかった。翌1871（明治4）年1月5日に上知令^{注2)}が出、6月には田畑収納の実績を書出させた。政府は境内（祭典法用に必要な場所）と民有地を除いた敷地を公収する方針であった。1875（明治8）年に政府からの出張調査があり、この時寺側が境内と思っていた土地63坪が土地と決定されたのに驚き、翌明治9年に払い下げ願いを提出したが明治10年文書は却下された。さらに明治12年に、明治11年境内外区画決定により（境内と）定められた敷地に限り、無償で払い下げになったとある¹⁴⁾。これに対し、寺院明細帳の寺地の種別には「境内官有地

表2 御府内寺社備考と寺院明細帳の絵図による、四軒寺町の境内の比較

御府内寺社備考			
寺院明細帳			

583 坪」と記載されており、その他に境外墓地 397 坪、子院領地約 200 坪があったことがわかっている。

本稿で参考とした寺院明細帳の記録は書面の最後に寺院と格上寺院の住職や要人の署名捺印が記載されており、期日は明治 10 年となっている^{注 3)}。このことから、明治 3 年概要調査、明治 4 年正月上知令と寺地境内外区別^{注 4)}と建物調査、明治 8 年現地調査と境内外境の告示、明治 10 年に記録の提出要請と提出¹⁵⁾、明治 11 年境内外の決定、明治 12 年以後に境内官有地払下げなどの処分という経過がよみとれる^{注 5)}。その間の土地関連の動きをみると、明治 2 年沽券状改正^{注 6)}、明治 4 年 7 月廃藩置県、同年 8 月朱引外区改正、明治 5 年 2 月地券発行、明治 6 年地租改正とあわただしい。ちなみに、明治 6 年に沽券図^{*4}が作成されていることから、これは沽券状改正、地券発行後の記録であることがわかる。

3- (2) 寺院明細帳による境内外区別について

ここで、寺院明細帳に掲載されている境内図から境内と官・民の種別をプロットした地図を作成した (図 4)。ちなみに、境外については、書面に官・民の区別と面積が記されている場合があるが、境外については配置図にほとんど記載されていないため、位置が不明な事例が多数ある^{注 7)}。まず、御府内寺社備考による寺地の面積と寺院明細帳に記載されている境内・外の面積を比較すると、1 定泉寺、5 潮泉寺など、境内官・民有地と境外民有地を合計するとほぼ江戸期の寺地面積と同等である寺院は他に 14 光源寺、31 大林寺、32 円林寺、36 大恩寺、38

長元寺の 7 ヶ寺と数少ない。このうち、31 大林寺と 36 大恩寺は江戸期に寺地全域が年貢地である。大林寺の寺院明細には、「一、境内 但シ民有地券状之儀ハ大林寺名受ニテ貢租モ同寺ヨリ上納」とあり、明治 5 年地券状が発行されて地税も納めたので民有地である、ということがわかり、しかも敷地全域が境内と認められている。境内に民有地を有する寺院はその他に 2 大運寺、6 十方寺、8 正念寺、17 淨心寺などがあるが、いずれも江戸期に年貢地であった面積と同等である。境外に民有地を有する寺院で、江戸期に拝領地だった寺院については、29 總禅寺の記載「一、境外 但民有地 是ハ当住職木村明禪自費開墾払下券状之儀ハ名受ニテ貢租モ同寺ヨリ上納」とあり、自費開墾の労苦を訴えて払下を受け、地税を収めたことが記されている。また、27 江岸寺の記載「一、境内外 但民有地 是ハ明治十年四月中地券御下渡出願中」などのように、払下げ出願中であることが記載されている例もある。一方、境内外に民有地を有しない寺院は 4 願行寺、7 専念寺、9 天栄寺、10 徳性時、12 正行寺、28 大円寺、41 浩妙寺で、その多くが江戸期の寺地が拝領地だった寺院である。

3- (3) 四軒寺町寺院の境内外区別について

さらに、明暦江戸図でも確認された四軒寺町の 4 ヶ寺 (15 瑞泰寺、13 栄松院、16 清林寺、14 光源寺) について、1826 (文政 9) 年御府内寺社備考と 1877 (明治 10) 年寺院明細帳の配置図を比較し、境内外取調べ後の境内の範囲についてさらに詳細な考察を行う (表 2)。これら 4 寺院を特に取り上げる理由は、前述のとおり由緒がはつき

図 4 1877 年寺院明細帳による寺地の種別

図 5 1917 年地籍地図・台帳による寺地の種別

図6 現代における駒込地区の寺地と周辺の用途

りしていること、これらの寺院が隣接する場所は街区のほぼ全体が寺地であるため、接道や寺院境界によってより正確な形状把握が可能なことである。まず、御府内寺社備考の配置図を見ると、四軒寺前の通りの名称が、「谷中通り」、「四軒寺町通り」、「駒込寺町通」と様々であることから、当時、町や通りの名称が複数あったことがわかる。1873（明治6）年地租改正の前後明治5～7年にわたって武家地に町名がつけられたことから¹⁶⁾、通りを挟んだ太田家敷地に駒込蓬萊町という名称がついたため、通りの名称が統一されたと推測される。本堂や付属屋の位置をみると、16 清林寺以外は江戸期の建物配置が全面的に変化している。寺院明細帳の15 瑞泰寺境内は、江戸期拝領地の約半分となっており、表門の位置などから街道沿いの寺地が境内から除外されていることがよみとれる。南東には地藏堂があるが境内と認められなかったことがわかり、北側に民有地^{注8)}（江戸期に持添え年貢地）があると推測できる。また13 栄松院は、明細帳の境内図西側に記載されている薄い線が江戸期の寺地境界であろう。江戸期は拝領地1080坪持添年貢地139坪、明細帳は境内官有地541坪境外民有地183坪^{注9)}とあり、民有地は江戸期の年貢地よりも広い。境内は瑞泰寺と同様、江戸期の拝領地のほぼ半分の面積となっている。境内外区別について、同様な面積の配分が、16 清林寺、27 江岸寺など他の多数の寺院にもみられ、境内が拝領地の約半分以下でかつ官有地となっている寺院は表1中に18ヶ寺ある。実際に、13 栄松院、16 清林寺、14 光源寺の境内境は、本堂を含めるために不自然な凹凸があり、境内の領域をできるだけ切り詰めようとした意図がよみとれる。

4. 明治以降の寺地の変化

4-（1）大正元年地籍地図による、明治期の変化

明治12年以降の官有地払下げなどによる寺地の変化は、大正元年地籍地図・台帳^{*5)}により知ることができる（図5）。この地区の地籍は、寺地民有地、寺地官有地、墓地民有地、墓地官有地、寺地以外（学校施設）の種別があり、例外として個人名義の寺地（37円成寺）がある。

まず、図4および図5を比較しながら、明治期に境内官有地が払下げによって民有地に変化している事例に着目する。特に顕著な例は、24 吉祥寺子院、34 世尊院、44 竜光寺、46 養源寺などの寺院で、かつての境内官有地がすべて民有地になっている。このように、境内官有地あるいは境外の土地された敷地が民有地に変化している寺院は12ヶ寺あり、一方、境内官有地が官有地のままである寺院は、3 連光寺、13 栄松院、14 光源寺、15 瑞泰寺、16 清林寺など、表中に14ヶ寺ある。次に境外官有地が民有地に変化している寺院では34 世尊院が顕著である。また対象範囲内で民有地を全く持たない寺院は38 長元寺のみである。さらに墓地領域の変化をみると、墓地の位置と面積がほとんど変わっていないか、もしくは明治初期の境外がそのまま墓地になっている寺院は、1 定泉寺、2 大運寺、27 江岸寺など8ヶ寺あり、位置がもとのままで墓地面積が拡張している寺院は35 大保福寺、34 世尊院、38 長元寺、44 竜光寺など7ヶ寺みられる。以上のことから、明治初期の境内官有地は約半数が払下げられ、境外として土地された敷地についても、随時払下げなされたことがわかる。

4-（2）現代の寺地と周辺の用途について

明治から昭和初期にかけて、この地区から移転した寺院は6ヶ寺、昭和後期に移転した寺院が1ヶ寺あり、現存する寺院は39ヶ寺である。寺地に係る政策の経過を概観すると、まず1939（昭和14）年国有境内地処分により、一部の国有境内地（官有地）が譲与や払下げを受けたが1943（昭和18）年の開戦により中断、戦後1947（昭和22）年第2次境内地処分法による審査が開始されて1953（昭和28）年に終了した¹⁷⁾。さらに1967（昭和42）年境内地普通財産の処理についての告示により、寺地の運用を促す結果となった^{注10)}。前述の通り、この地区は戦災により壊滅的な被害を受けたため土地に関する詳細な資料が残っていないが、広範囲な区画整理が行われなかったため、街路や街区には、江戸期の主要な道筋と概形が残っている。

そこで、1999年住宅地図^{*6)}と現地調査および航空写真により、現代の寺地と墓地、住宅、高層マンション、公共施設などの用途をプロットした地図を作成し、寺地の変化についての比較検討を行った（図6）。まず、寺地が大正元年の規模とほぼ同じである寺院は、6 十方寺、10 徳性寺、14 光源寺、40 顕本寺、43 円通寺などがあげられる。特に6 十方寺や10 徳性寺は、街道沿いに江戸期の町人地（門前）の形状も維持されている。一方、34 世尊院では寺地が大幅に縮小して宅地となっており、35 大保福寺、25 高林寺、28 大円寺は、寺地が学校施設用地に変化している（駒込学園中学・高等学校、区立駒本小学校、都立向ヶ丘高校）。また、13 栄松院は、寺院明細帳に記された境内の形状を維持しており、この街道沿いに門前町屋があったことがわかる。次に、大正期と墓地の位置を比較すると、11 天然寺、20 教元寺など墓地が消滅した寺院を除き、ほとんどの寺院は墓地の位置に変化がない。6 十方寺、14 光源寺、15 瑞泰寺、16 清林寺では寺地官有地に墓地が形成されているが、明治初期に境外だった領域である。例外として、4 願行寺は明治と大正期の境内官有地に墓地が移動している。さらに、14 光源寺、21

図7 左から順に、谷中地区、西浅草地区、駒込地区の寺地の変化

*凡例は同一

長源寺、24 吉祥寺、43 円通寺など複数の寺院では、墓地領域が大幅に拡大している。寺地自体は縮小していることから、境内地の宅地化とともに、墓地の需要に答え、新規墓地としての運用がなされていることがわかる。最後に、現地調査により寺地に近接して建つ五階建て以上の高層マンションをプロットした。寺地に隣接する例として、1 定泉寺、4 願行寺、6 十方寺、12 正行寺、21 長源寺、34 世尊院、19 尊西寺が顕著であり、中でも 12 正行寺、19 尊西寺、34 世尊院はマンションは墓地に接している。これらのマンションは主要道路に面しており、裏のベランダから墓地を望む状況であることがわかる。本郷通り沿いの寺院をみると、寺地が長距離にわたり道路と接している寺院は 38 長元寺のみで、他の寺院は狭小な参道により接道している状況である。

5. まとめ

5- (1) 駒込地区について

以上の研究により得られた知見と考察をまとめる。

- ①駒込地区には、明暦大火以降に神田、湯島、本郷などごく近隣から移転した寺院が数多い。江戸後期には麟祥院領が 9ヶ寺あり、もとは麟祥院領だった寺院が他にも多数あると考えられる。
- ②明治初期境内外取調べの結果、境内が江戸期拝領地の半分以上となっている寺院が 18ヶ寺と多いうえ、本堂を境内に含めるために不自然な凹凸のある境界線がみられることなどから、境内地を切り詰める意図があったと推測される。
- ③寺院明細帳の記録によると、境内外取調べの結果、民有地と認められたのは、江戸期の年貢地および明治 5 年に地券が発行された土地と、上地の後に自費開墾の労を訴えて払下げを受け地税を納めた土地である。
- ④大正期の地籍から、境内官有地がすべて民有地となっている寺院は 4ヶ寺あり、一部が民有地化している寺院が 12ヶ寺ある一方、官有地のままである寺院が 14ヶ寺ある。民有地を全く持たない寺院はわずかに 1ヶ寺であり、明治期に随時払下げがなされたことがわかる。
- ⑤明治期に墓地の位置が変化していない寺院は、わかる範囲でも 15ヶ寺あり、そのうち 7ヶ寺は面積が拡大している。もともと明細帳の配置図に墓地の記載が少ないことから、明治期に墓地の位置はほとんど変化せず面積はむしろ拡大したと考えられる。
- ⑥この地区は戦災にあったものの大規模な区画整理がなされていないため、江戸期の主要な道筋が残っている。現況で寺地が大正元年の規模とほぼ同じである寺院は 5ヶ寺ほどあり、門前町屋の街区の形

状をおおよそ継承している箇所も所々にみられる。しかし一方で、寺地と接して道路沿いに高層マンションが建つ場所も多く、マンションのバルコニーから墓地を望む状況となっている。

5- (2) 谷中地区、西浅草地区との比較考察

最後に、前稿 2 編（参考文献 1）、2）で行った谷中地区と西浅草地区の寺地の変遷との比較考察を行う。3 地区の同スケールの地図に、1856（安政 3）年の寺地、現代の寺地と墓地を重ね合わせた図を作成した（図 7）。まず、前稿でも述べたとおり、谷中地区では、寺地の一部が宅地化されているが、寺院数は減っておらず、隣り合う寺地と墓地からなる連続した寺町が現存している。特に、元天王寺の寺地が公営墓地（谷中霊園）になるなど、墓地が寺地全体の半分以上の領域を優に占めている。それに対して西浅草は、江戸期には付近一帯が連続した寺地であったにも関わらず、谷中地区とは対照的に、寺院数と寺地が共に激減している。現在は、区画整理された街区の中央に寺地が孤立して残存している状況である。そして駒込地区では、江戸期の町人地・門前が寺地まで拡大して宅地化し、武家地は公共施設用地（学校）や私有地（宅地）となった状況で、江戸期の寺地はある程度のもとりをもちつつ分散している。全体的には寺地が減少しているが、境内の場所が変化せずに隣り合う寺院も数多く、まとまった寺地と墓地が確保されている。

*本研究は、文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）（課題番号 21560670）の助成を受けて行なった研究の一部である。

参考文献

- 1) 渡邊美樹：台東区谷中地区の寺地の変遷，日本建築学会計画系論文集 第 76 巻 第 669 号，pp. 2255-2262，2011. 11
- 2) 渡邊美樹：台東区西浅草の寺町の変遷，日本建築学会計画系論文集 第 78 巻 第 685 号，pp. 715-723，2013. 3
- 3) 鈴木昌雄：初期の江戸における町の変遷と寺院の移転，封建都市の諸問題－日本の町Ⅱ－，雄山閣，pp. 97-112，1959
鈴木理生：千代田区の歴史，東京ふるさと文庫 5，名著出版，1978
鈴木理生：幻の江戸 100 年，ちくまライブラリー 57，筑摩書房，1991
鈴木理生：江戸の都市計画，三省堂，1988
- 4) 日塔和彦：江戸御内寺の全体的把握－『御内寺社備考』研究（Ⅰ）－，建築史の脈脈，大河直躬先生退官記念論文集刊行会，pp. 171-198，1995
日塔和彦：『御内寺社備考』からみた江戸の寺院，年報都市史研究，宗教と都市，山川出版社，pp. 3-18，1998
- 5) 伊藤毅：都市の空間史，吉川弘文館，2003
- 6) 吉田伸之：巨大城下町江戸の分節構造，山川出版社，1999
- 7) 伊坂道子，鈴木博之他 6 名：増上寺境内地区歴史的建造物等調査報告書，境内研究事務局，2003. 7

8) 港区教育委員会：三田寺町の建築，2009.3
9) 光井渉：近世寺社境内とその建築，中央公論美術出版，2001
10) 国立国会図書館閲覧部：寺社書上 旧幕府引継書目録第1冊，1960
11) 御府内寺社備考全7冊（1828，29），名著出版，1986,87
12) 東京府：寺院明細帳・本郷区 文部省用箋、明治18（1885），東京都公文書館所蔵
13) 本郷仏教会：本郷の寺院－街と寺詩－，1979
14) 文京区役所：文京区史 巻3，pp.907-910，1968
15) 国文学研究資料館史料館編：社寺明細帳の成立，名著出版，2004年
16) 土方晋：江戸時代の江戸の税制と明治6年地租改正公布，税務経理協会，2004年
17) 大蔵省財務局：社寺境内地処分誌，1954.4

参考地図

*1 吉原健一郎，俵元昭（監修）：江戸 明治 東京重ね地図，APPカンパニー，2004.4
*2 寛永江戸全図，之潮，2007.12
*3 明暦江戸大絵図，之潮，2008.5
*4 東京府地券課：沽券図，東京都公文書館蔵，1874
*5 地籍地図・地籍台帳（東京），東京市区調査会，1989.3
*6 はいまっぷ台東区住宅地図，セイコー社，1999

注

注1) 例えば20 教元寺は、日本橋にあった境内地が御用地となり替地を豊島郡板橋に下附されたが、不便な場所であったためほかに土地を求め、八丁堀辺に5 年間仮住居した後本郷麟祥院百姓年貢地を買い求めた。22 西善寺は、本郷丸山から金助町に移転、さらに1683 年に春日の局の要請によって駒込にあった春日局の御朱印地に移転した（参考文献13，p.118,284）。
注2) 西暦1871 年正月5 日、「社寺ノ所有地ヲ収メテ、府藩縣ニ屬ス」、東京市史稿 市街篇 第51 巻，p.759

注3) 寺院明細帳は明治18 年発行と記されているが、各寺院の記録書最後には寺院や格上寺院の住職による署名捺印があり日付は明治10 年となっているため、記載内容は明治10 年として扱った。
注4) 「太政官府藩縣ニ令シテ寺地ノ境内ヲ定メ、境外地ハ6 年間ノ税額ヲ録上セシム」、明治4 年5 月24 日、詳細を要約すると、現在の境内を除き上地するにあたり、境内外を定め境外（民有地）については不毛の地といえども墓所を除いて6 年の税を課す、東京市史稿 市街篇 51 巻 P.988,9
注5) 御府第十九号ヲ以明治十一年五月官有地境内外区画決定之分ニ限り無代価ニテ民有地ニ御下渡被成下
注6) 「令シテ、沽券状ヲ改正シ、同時ニ六尺間ヲ用セシム」、明治2 年5 月17 日、詳細を要約すると、町屋敷の譲渡が煩雑に行われており町や地所名が相違しているため従来の沽券状を一切廃止して、別紙雛形により提出すること。東京市史稿 市街篇 50 巻 P.754
注7) 図5 の地図の道路と敷地境界は基本的に1856 年重ね地図を使用しているが、寺地の境界については明治6 年沽券図により若干の修正を行なった。寺院明細帳の配置図は、敷地形状がかなり簡略化されているうえ、境内地を記すのみで寺地全体の記載がほとんどない。寺院明細帳の境内図をプロットするにあたっては、御府内寺社備考に記載されている表門、接道、方角を敷地形状を参照しながら、御府内寺社備考の敷地面積と明細帳記載の面積割合を相対的に検討して記載した。配置図記載の寸法などによる詳細な照合は行っていない。
注8) 一．民有地 八畝廿二歩 但券状瑞泰寺名受貢租モ亦同寺ヨリ上納
注9) 一．宅地 五畝二拾三歩 但券状栄松院名受貢税モ同院ヨリ上納
注10) 社寺境内地などとして使用されている普通財産の処理について、大蔵省国有財産局告示第1196 号、昭和42 年を参照しながら、御府内寺社備考の敷地面積と明細帳記載の面積割合を相対的に検討して記載した。配置図記載の寸法などによる詳細な照合は行っていない。

(2013年8 月1 日原稿受理，2013年12月6 日採用決定)